

【学生フォーラム】

「地域貢献とボランティア」における活動と学び

岡崎女子大学 杉本樹菜、鼻戸万莉、室田つぐみ

要 旨

「地域貢献とボランティア」は、本学1年生を対象にした授業であり、地域の教育・保育・福祉に携わる現場でボランティア活動に取り組み、活動の知識やスキルの取得を目指すことを目的としたものである。本発表では、発表者3人がボランティア活動を行ったそれぞれの施設での活動と学びについて報告を行った。ボランティア活動を通して学んだことは多くあった。中でも3人に共通している部分は自分から積極的に関わることの大切さに気付くことができた点であった。

1. 「地域貢献とボランティア」の授業の概要

「地域貢献とボランティア」は、本学の1年生を対象にした授業であり、社会貢献に向け、市民の一人としての、専門職としての自己の役割を考え、行動できるようになること、地域の教育・保育・福祉に携わる現場に出向き、子どもから高齢者まで様々な人々と関わるボランティア活動を通して、地域貢献活動の意義を理解し、活動の知識やスキルの取得を目指すことを目的としたものである。授業の到達目標として、様々な社会構成員の生活や社会の課題についての視野を広げること、多様な人々とのコミュニケーションのポイントやスキルを身に付けること、専門職として社会とのかかわり方について考え、行動していこうとする意欲を向上させることの三つを掲げている⁽¹⁾。

以下、発表者3人がボランティア活動を行ったそれぞれの施設での活動と学びについて報告する。

2. 各施設での活動と学び

(1) こども園での活動を通して学んだこと (杉本)

こども園での主な活動内容は子どもたちと関わることであった。その中で学んだことは大きく分けて三つある。一つ目は、アレルギーを持つ子に対しては多くの配慮が必要だということである。関わる時には手を洗うことや食事後には食べくずが落ちていないか確認すること、きれいなタオルで口を拭いてあげることなど危機感を持って関わらなければならないと学ぶことができた。二つ目は、自分のそばに来てくれる子とばかり関わるのではなく、そうでない子に対しても自分から積極的に関わるということである。はじめは心を開いてくれなくても自分から関わり続けることによって次第に心を開いてくれるようになるということを経験して知ることができた。三つ目は、泣いている子に対してはまず寄り添うことが大切だということである。子どもと保育士の方との関わりを見る中で、泣いてしまっている子に対して焦って関わるのではなく、寄り添い子どもの気持ちを汲み取ることが大切だということを経験することができた。

今回の貴重な体験を通して多くのことを学ぶことができたので、今後の実習などにも生かし、様々な子どもたちと関わっていきたい。

(2) ボランティア活動を通して学んだこと (鼻戸)

私は今回、私立幼稚園でボランティア活動に取り組んだ。主な活動内容は、園内の掃除や子どもたちと遊ぶこと、絵本の読み聞かせなどである。ボランティア活動をする中で印象に残った場面は、おままごとをするときの年中・年長の違いについてだ。年中は、「入れてー」と言ったら誰でも輪の中に入れてくれる傾向があるのに対し、年長は、人間関係ができ始めているため、「入れてー」と言っても「嫌！」という子がいる傾向が見受けられた。このような場面に遭遇した場合、無理に輪の中に入れるのではなく、少し時間をおいてみたり、その子にあった新しい役割を一緒に考えたりすることが大切であり、年齢の発達に応じた支援が必要だと気付くことができた。

ボランティア活動を通して、人見知りなどがあり距離を縮めることが難しい場合、自ら積極的に関わりにいき、会話することの大切さや、子どもたち全員に同じ接し方をするのではなく、1人1人の個性や特徴を把握して、その子の発達にあった対応をすることの大事さを学ぶことができた。

(3) 児童養護施設での活動を通して (室田)

私は、児童養護施設でボランティアを行った。主な活動として、室内、玄関の掃除や洗濯物をたたむこと、昼食の配膳などの身の回りの世話のほか、子どもと自由に遊ぶことも行った。

初めての児童養護施設での活動を通して学んだことは、「優しいだけではだめ」ということだ。児童養護施設へ行く前は、施設で生活する子どもたちは心に深い傷を負っており、叱らずにできるだけ優しくすることが大切だと思っていた。しかし、施設職員の様子を見てただただ優しいだけではなく、子どもたちを育てる立場として、いけないことをした時にはきちんと注意することも大切だと学んだ。また、会話をたくさんとることの大切さも学んだ。施設職員は、昼食時や自由時間など個人個人に対して話したり全体に対して話したりと、積極的に会話をとっている様子が見られた。この様子から積極的に会話をし子どもの気持ちを聞くことで、子どもとのより良い信頼関係が築かれていくということを学んだ。今回児童養護施設へ行き、社会的養護を必要とする子どもたちと接する上で大切なことを学んだ。このような貴重な経験から得たものを忘れずこれからの活動に生かしていきたいと思う。

3. まとめ

以上、「地域貢献とボランティア」における発表者3人の活動と学びについて述べてきた。ボランティア活動を通して学んだことは発表者によって違いが見られるが、どの施設でも自分から積極的に関わることを大切さに気付くことができたという点は共通していると考えられる。この授業を通して学んだことを今後の授業や実習に生かしていきたい。

注

(1) 2021年度「地域貢献とボランティア」のシラバスを参照した。

謝辞

今回、ボランティア活動を受け入れていただいた施設の皆様に心より感謝申し上げます。